



文化庁芸術祭レコード部門“大賞”受賞記念コンサート 力強く、美しく鳴り響く、フォルテピアノの真髄



昨年度、楽器博物館コレクションシリーズCD No. 38「イギリス・ソナタ～ブロードウッド・ピアノ 新世紀の響き～」が、文化庁芸術祭レコード部門で最高賞の大賞を受賞しました。それを記念して、同タイトルによるコンサート（第155回レクチャーコンサート）が11月12日（火）に開催されました。

プログラムは、CDに収録されているものの中からハイドンの「イギリス・ソナタ ハ長調」、クレメンティの「ソナタ ロ短調」、ベートーヴェンの「ソナタ ハ長調『ヴァルトシュタイン』」、収録曲以外にベートーヴェンの「ソナタ ヘ短調『熱情』」が演奏されました。使用するフォルテピアノは1802年頃にロンドンで作られたブロードウッド&サン製の68鍵のフォルテピアノ。産業革命の真只中のイギリスで、科学者の意見も取り入れて製作された新しい響きのピアノです。この時代のイギリスのピアノの響きに触発されて、ベートーヴェンは『ヴァルトシュタイン』や『熱情』を作曲しました。小倉貴久子さんのエネルギー溢れる見事な演奏は、170人の聴衆に感銘を与えました。

去る8月30日に東京のヤマハホールでもこのピアノを使って小倉さんが『ヴァルトシュタイン』を演奏し、ホールの歴史に残る名演との評価をいただきましたが、

浜松でのコンサートはそれに勝るとも劣らず、素晴らしいコンサートになりました。

小倉さんも、「嶋館長から電話で大賞受賞のお知らせをいただいたのを昨日のここのように思います。受賞の喜びとこれからの責任の重さを日々感じております。」とお話しされました。

途中で博物館の嶋館長と2人でお話され、嶋館長は「小倉さんとの15年前の出会いが今日まで続き、さまざまな活動と成果を社会に残すことができました。博物館だけでは何もできません。小倉さんとの出会い、そして今までのご支援とご協力に助けられて、今日を迎えられました。感謝の言葉しかありません。」と感慨深く話されました。

このコンサートは、楽器博物館友の会の秋の集いも兼ねており、終演後、友の会の池浦会長より嶋館長に、友の会からの受賞祝賀記念品目録が贈呈されました。

博物館は再来年2015年に20周年を迎えます。これからもフォルテピアノの素晴らしさを伝えていく予定です。

日 時：平成25年11月12日（火） 19：00～21：00
会 場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
出 演：小倉貴久子 入場者：166人

レクチャーコンサート「19世紀サクソフォーンのエレガンス ～アドルフ・サククス オリジナルサクソフォーンの魅力～」

あらゆるジャンルで使われ、大変人気のある楽器サクソフォーンはベルギーの楽器製作者アドルフ・サククス（1814～94）によって1840年頃に発明されました。当館はアドルフ・サククス製作のサクソフォーンを所蔵しています。1996年にもこれらの楽器を使用してコンサートを開催しましたが、今回は17年ぶりに楽器に息を吹き込みました。当時のサクソフォーンは現在のものと音域も音量も、そして音色も違います。特に音色は、よりエレガントで弦楽器に近い響きを持ち、甘い音色が特徴です。演奏は、赤松二郎サクソフォーン・カルテットの皆さん。現代のサクソフォーンとは指使いも違い、音を出す感覚も違うため、とても難しいとお話しされ

ながらも全10曲を演奏してくださいました。ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、それぞれの魅力はソロ曲やアンサンブルでも発揮されました。サクソフォーンの原点を聴くまたとないチャンスとあって、多くのお客様に楽しんでいただきました。古楽器から、当時の作曲家が求めていた優しさや美しさといった音の表現を再発見できる貴重な演奏会でした。

日時：平成25年11月16日（土） 18：30～20：30
会場：楽器博物館 天空ホール
出演：赤松二郎サクソフォーン・カルテット
〈赤松二郎 猿渡裕介 中谷龍也 飯守伸二〉
寄藤佳織（ピアノ）
入場者：76人



レクチャーコンサート「フィンランドの古代楽器“ヨウヒッコ” 北欧のクリスマス支度」

フィンランドより初来日のヨウヒッコのアンサンブル“ヨウヒオルケステリ”の皆さんとカレリアンヨイクの歌手でカンテレ奏者のカロリーナ・カンテリネンさんをお招きしました。ヨウヒッコもカンテレもフィンランドの伝統楽器です。現在、ヨウヒオルケステリの活動は国境を越えて世界中から関心を集めています。

ヨウヒッコはヨーロッパにおける最も古い弦楽器のひとつです。弦は3本で、常に2本を同時に鳴らすのが特徴で、フィンランドの豊かな自然を思わせるような哀愁を帯びた音をしています。コンサートでは、出演者でもあるラウノさんが作ったヨウヒッコを用いて演奏して頂きました。ひとつひとつ色が異なり、手作りのあたたかさが、目からも耳からも感じられました。

また、ヨウヒオルケステリ編曲のフィンランドの伝統的な音楽を、歌いながら演奏する場面もありました。

そして、カンテレは木の箱の上にはられた金属の弦を指で弾いて音を出します。カロリーナさんの豊かな表情をもつカレリアンヨイクの歌声と、カンテレの優しく澄んだ響きがとてもよく調和していて、心地よい響きが会場をつつみみました。

日時：平成25年11月25日（月） 19:00～21:00
会場：楽器博物館 天空ホール
出演：ヨウヒオルケステリ 〈ペッコ・カッピ、イルッカ・ヘイノネン、ラウノ・ニエミネン、パイヴィ・ヒルヴォネン〉
カロリーナ・カンテリネン(カレリアンヨイク、カンテレ)
入場者：72人



ヨウヒッコ

カンテレ

イブニングサロン「17-18 世紀のギター音楽 バロックギターとイングリッシュギター」



鍵盤付きイングリッシュギター

日 時：平成 25 年 11 月 30 日 (土) 18:30 ~ 20:15
 会 場：楽器博物館 天空ホール
 出 演：竹内太郎 (バロックギター、イングリッシュギター)
 井上景 (イングリッシュギター、6 コースギター)
 入場者：57 人

竹内太郎さんと井上景さんをお迎えして 17-18 世紀のギターとイングリッシュギターを使ったコンサートを開催しました。17-18 世紀に使われていたギターは大きさも小ぶりで弦も金属ではなくガットなので、音色もまた優しくやわらかい音がします。胴がほぼ円形のイングリッシュギターは 18 世紀にイギリスで流行した楽器で当時の女性がこぞって演奏していたそうです。ギターのための曲を多く作曲したロベール・ド・ヴィゼの「組曲ニ短調」や 18 世紀にロンドン、パリで大変人気のあったジャコモ・メルキ作曲の「イングリッシュギターのためのソナタ第 2 番」などが演奏されました。

コンサートの中で特に興味深かった楽器は鍵盤付きのイングリッシュギターです。普通、ギターは弦を弾いて音を出しますが、付属の鍵盤を楽器に取り付けて弦を叩いて音を出すので、ピアノのような音がするのです。この楽器を使ってトーマス・ボルトン作曲「ピアノフォルテ・ギターのための小品」が演奏されました。予想以上に素敵な音がしたので、会場からは驚きの声が上がりました。使用した 4 台のうち 3 台は当館所蔵の楽器で、3 年間の修復を経てやっと演奏ができるようになったものです。数百年ぶりに人前に出た楽器たちですが、とても良い音色を響かせてくれました。

ミュージアムサロン「バラフォン」「フルート・アンサンブル」「リードオルガン&ソプラノ」

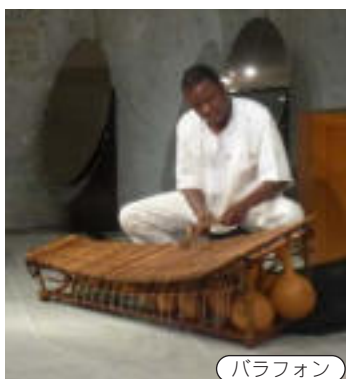
秋にも様々なジャンルの音楽をミュージアムサロンで楽しみました。11 月 1 日 (金) は、バラフォン奏者、ムッサ・ヘマさん。ブルキナファソのグワン族に継承される冠婚葬祭や特別な音楽会の奏者として育ったムッサ・ヘマさんによるバラフォンのソロ演奏です。バラフォンとはアフリカの木琴で、共鳴装置はひょうたんでできています。アフリカの心地よいポリリズムを感じることができました。11 月 23 日 (土) は、浜松フルートクラブの皆さんによる演奏でした。浜松で活動しているアンサンブルグループで、ソロから十重奏までさまざまな編成で演奏されました。十重奏ではバッハ作曲「小フーガト短調」が演奏され、まるでパイオルガンのような音色が会場に響き渡りました。

12 月 1 日 (日) は、リードオルガンの鈴木開さんとソプラノの名倉亜矢子さんによる演奏でした。当館所蔵の 19 世紀にアメリカのエスティ社が製作したオルガンのソロでクリスマスのミサ曲他を、オルガンとソプラノの優しい歌声で「秋の里」他、日本の唱歌と童謡が披露されました。

「ブルキナファソのバラフォン」 11/1 (金) 15:00
 出 演：ムッサ・ヘマ 入場者：32 人

「フルート・アンサンブル」 11/23 (土) 14:00、15:30
 出 演：浜松フルートクラブ 入場者：101 人

「リードオルガン&ソプラノ」 12/1 (日) 14:00、15:30
 出 演：鈴木開 名倉亜矢子 入場者：105 人
 会 場：いずれも 楽器博物館 天空ホール



バラフォン



フルートアンサンブル



リードオルガン&ソプラノ

講座

「楽器の中の聖と俗 ハンガリアン・ダンス③」



当館名誉館長、大阪音楽大学名誉教授の西岡信雄さんによる講座「楽器の中の聖と俗」(全3回)の最終回です。今回はハンガリアン・ダンス「田園が似合う楽器たち」として、気鳴楽器、弦鳴楽器、体鳴楽器の3種類に分けて楽器を紹介しました。羊飼いが吹く複数の管がある縦笛「ドゥヴォヤンカ」、ハンガリーのみで使われる、チェロによく似た弦楽器「ガルドニェ」、ツィンバロム奏者が演奏するための、ツィンバロムの弦と同じ配列で鍵盤を並べた木琴「ファツィンバロム」など、多くの楽器の演奏風景を、音や映像で楽しみました。

日 時：平成 25 年 11 月 11 日 (月) 18:30 ~ 20:00

会 場：楽器博物館 展示室

講 師：西岡信雄 受講者：15 人

楽器博物館CDカタログができました

各界から高い評価を得ている楽器博物館コレクションシリーズCD。現在 47 枚のアルバム (No. 1 と No. 2 は廃盤) をリリースしていますが、そのジャケットと収録曲、雑誌や新聞の批評などを紹介したカタログができました。CDは当初、一般市場では販売されていなかったため雑誌などの批評はないのですが、一般市場に流通するようになってからは、特に東京の多くの新聞雑誌で高い評価を得ています。欧米の楽器博物館が出しているCDに、勝るとも劣らぬ種類の多さと上質の音楽性に溢れるCDです。ぜひ手にとってご覧ください。



博物館日誌

- 11/1 (金) ミュージアムサロン「ブルキナファソのバラフォン」
15:00 天空ホール 出演：ムッサ・ヘマ 入場者：32 人
- 11/3 (日) 文化の日無料入館日 入館者：1,119 人
- 11/11 (月) 講座「楽器の中の聖と俗」(全3回)
「ハンガリアン・ダンス③ 田園が似合う楽器たち」
18:30 展示室 講師：西岡信雄 受講者：15 人
- 11/12 (火) レクチャーコンサート 平成 24 年度レコード部門
文化庁芸術祭「大賞」受賞記念コンサート
「イギリス・ソナタ～ブロードウッドピアノ 新世紀の響き～」
19:00 音楽工房ホール 出演：小倉貴久子 入場者：166 人
- 11/16 (土) レクチャーコンサート「19 世紀サクソフォンのエレガンス
～アドルフ・サクス オリジナルサクソフォンの魅力～」
18:30 天空ホール 出演：赤松二郎サクソフォン・カルテット
(赤松二郎、猿渡裕介、中谷龍也、飯守伸二) 寄藤佳織
入場者：76 人
- 11/23 (土) ミュージアムサロン「フルート・アンサンブル」
14:00、15:30 天空ホール 出演：浜松フルートクラブ
入場者：101 人
- 11/25 (月) レクチャーコンサート
「フィンランドの古代楽器「ヨウヒッコ」 北欧のクリスマス支度」
19:00 天空ホール 出演：ヨウヒオルケステリ(ペッコ・カッピ、
イルッカ・ヘイノネン、ラウノ・エミネン、パイヴィ・ヒルヴォネン)
カロリーナ・カンテリネン 入場者：72 人
- 11/30 (土) イヴニングサロン
「17-18 世紀のギター音楽 バロックギターとイングリッシュギター」
18:30 天空ホール 出演：竹内太郎、井上景 入場者：57 人
- 12/1 (日) ミュージアムサロン「リードオルガン&ソプラノ」
14:00、15:30 天空ホール 出演：鈴木開、名倉亜矢子
入場者：105 人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日数回
チェンバロや 19 世紀のピアノなどのデモ演奏
- レクチャーコンサート
「オカリナの故郷イタリアから“元祖”オカリナ七重奏
オカリナ七重奏 GOB - ゴブ -」
2/2 (日) 18:00 音楽工房ホール 出演：オカリナ七重奏 GOB
- レクチャー
「オカリナの故郷イタリアから“元祖”オカリナ七重奏
オカリナ七重奏 GOB - ゴブ -」
2/2 (日) 13:30 音楽工房ホール
講師：オカリナ七重奏 GOB メンバー
- ミュージアムサロン いずれも天空ホール
「馬頭琴」 出演：福井則之
1/4 (土) 11:00、13:00、14:00、15:00、16:00 (各 20 分間)
「フルースー」 出演：伊藤悟
1/5 (日) 13:30、14:30、15:30 (各 20 分間)
- ワークショップ
「韓国の太鼓“チャンゴ”を演奏しよう！」
2/16 (日) 13:30 研修交流センター 37 セミナー室
講師：リ・チャンソプ



馬頭琴



フルースー

浜松市楽器博物館だより

平成 25 年 12 月 10 日発行 No. 84 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央 3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp URL <http://www.gakkihaku.jp/>